



IGC No.1

事務局ニュース 第29回IGC事務局

今年7月ワシントンで行われた第28回 IGC において1992年第29回 IGC の日本開催が正式に決まりました。地質科学分野で最も大きな国際会議である IGC を3年後に日本で開催するために その準備・運営機構が整備され 地質調査所に事務局が置かれることになりました。この欄は 準備状況を国内各界にお知らせするために 毎号掲載する予定で新設したものです。12月号では IGC 特集を企画し その歴史と現状および第29回会議の準備体勢の詳細をご紹介するとともに ワシントン会議の様子をご報告したいと思います。(編集委員会)

第29回万国地質学会議の概要

会議の名称

第29回万国地質学会議 (29th International Geological Congress, 略称 29th IGC)

会期・会場

1992年8月24日(月)から9月3日(木)
国立京都国際会館

会議の内容

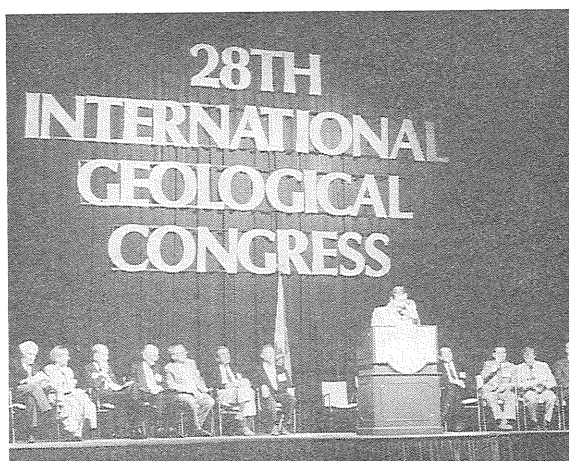
万国地質学会議は 1878年に第1回がパリで開催されて以来 今年の第28回まで続いている地質科学最大の国際会議で 地質学のみならず関連する地球科学の諸分野を網羅し 取り扱うテーマは純学術的なものから資源・海洋・土木・建設・環境などの応用分野まで広範囲にわたっている。日本で開催される次回第29回会議は 初めて弧状列島という地球科学的環境で行われるため 活動的プレート境界域の現象に討議の焦点を合わせると同時に 先端的な地球科学関連の応用面でのテーマをも積極的に取り上げることとしている。この会議の前後には それぞれ1週間程度の地質巡検を行うように定められており 次回も日本および周辺諸国で数10コース程度の現地見学旅行を行うことになっている。

会議の主催団体

この会議は 開催地に設置される組織委員会が主催団体となって組織運営にあたることとなっており 第29回万国地質学会議組織委員会(12月号で詳細を紹介の予定)が主催団体の正式名称である。IGCは 地質科学関連の常設の国際学術組織である万国地質科学連合(International Union of Geological Sciences, IUGS)との密接な連係の下に開催されることとなっており IUGSはこの会議の母体機関の役割を果たしている。このIUGSには日本学術会議が正式に加入しており 日本の分担金は米ソ仏に次ぐ第2ランクに位置する。第29回会議組織委員会は 円滑かつ効率的な準備を進めるため 日本学術会議との共催を希望している。

会議の規模

会議の規模は 1800年代には20~30カ国数百人の規模であったが 1980年代からは参加国は100カ国を越し 参加者も5,000人を超える規模となった。今年の第28回会議では6,000人以上の参加者があった。第29回会議の参加者数は 予測が難しいが 同伴者を含めておよそ5,000人程度を見込んでいる。



日本国内における準備の経緯

日本学術会議の地質学研究連絡委員会（前記 IUGS に対するわが国の正式窓口）は IGC の日本開催について検討を重ねた後招致を決定して 1984年にモスクワで開かれた第27回会議で招請の意志を表明し IGC 役員会で承認された。これに対応して1985年に準備委員会が組織され 会議開催のための準備を始めた。1988年3月にアメリカ合州国で行われた IGC の執行委員会で日本開催が再確認されたのを受けて 1988年12月に新たに組織委員会が設置された。1989年7月の第28回 IGC における第29回日本開催の正式決定を受けて 組織委員会傘下の会場・学術プログラム・巡検などの小委員会においても本格的な準備活動が開始されている。

会議の費用概算

地質巡検参加費・学術論文集の出版費などを除き 会議開催のための直接的な費用はおおよそ3.5億円程度と見込まれる。登録料を差引いた2億円ないし2.5億円の金額を準備する必要がある。

プログラム

シンポジウムを主体とする。シンポジウムは地質科学全体をカバーするよう20テーマ以上に区分して行う計画である。現在までにプログラム小委員会で考慮されている科学プログラムの大要は以下の通りである。詳細はこれから国内外からの申込によって編成されることになっている。

1. メインテーマを「弧状列島および活動的大陸縁の地球科学」とする。
2. 口頭発表はすべてシンポジウム形式とし それ以外はポスター発表とする。
3. 日本の地質に関する特別シンポジウムを行う。
4. シンポジウムには次のような区分が考えられる。

<レギュラーセッション (案)>

- | | |
|---------------|--------------|
| 1 層位 | 13 粘土地球科学 |
| 2 堆積および堆積岩 | 14 鉱物資源 |
| 3 地質構造・テクトニクス | 15 燃料鉱床 |
| 4 古生物 | 16 地熱 |
| 5 地球編年 | 17 地質工学・水文学 |
| 6 海洋地質 | 18 環境地質 |
| 7 第四紀 | 19 自然災害 |
| 8 火山 | 20 数理・情報地球科学 |
| 9 火成岩 | 21 リモートセンシング |
| 10 変成作用・変成岩 | 22 地球科学史 |
| 11 惑星科学 | 23 地学教育 |

- | | |
|-------|--------|
| 12 鉱物 | 24 その他 |
|-------|--------|

<スペシャルシンポジウム (案)>

- 深海掘削計画 (ODP)
- 国際リソスフェア探査開発計画 (ILP/DELP)
- 日仏海溝計画 (KAIKO)
- 深層ボーリング
- 国際地圏生物圏研究計画 (IGBP)
- 日本の地質と島弧の発達
- マントルダイナミクス
- 日本における大型土木地質計画
- 地球環境とエネルギーの将来

巡 検

会期の前後に巡検（現地見学・討論会）をそれぞれ1週間程度行う。巡検は準備委員会段階で巡検小委員会を設け 地域別とテーマ別に立案中である。

展示会

会場に接して 企業・政府機関・大学などの広報・機材の展示のための展示場を設ける予定である。

第29回 IGC の運営機構

- | | |
|-----------|-------------|
| 会 | 長：和達 清夫（予定） |
| 組織委員会委員長： | 佐藤 正 |
| 事務局 長： | 本座 栄一 |

事務局連絡先

〒305 筑波学園郵便局私書箱 65
第29回 I G C 事務局

